

第2期末 (2023年4月25日)

基準価額	7,542円
純資産総額	36億円
騰落率	△16.3%
分配金	0円

商品内容、運用状況などについてのお問い合わせ先

コールセンター **0120-762-506**

(9:00~17:00 土日祝日・年末年始を除く)

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-6

グローバル・ ディスラプター成長株ファンド (資産成長型)

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

作成対象期間：2022年4月26日～2023年4月25日

第2期 (決算日 2023年4月25日)

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて「グローバル・ディスラプター成長株ファンド（資産成長型）」は、このたび第2期の決算を行いました。

当ファンドは、「GAMディスラプティブ・グロース・ケイマン・ファンド」への投資を通じて、日本を含む各国の株式のなかから、既存の市場を破壊しうる革新的な技術・ビジネスモデルを有し、株価上昇が期待できる成長企業の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後ともいっそうのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドは、投資信託約款において、運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、下記の手順で運用報告書（全体版）をダウンロードすることができます。また、運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

【ダウンロード方法】上記ホームページ→ファンド検索→ファンド名入力→ファンド詳細ページ→運用レポート→運用報告書（全体版）

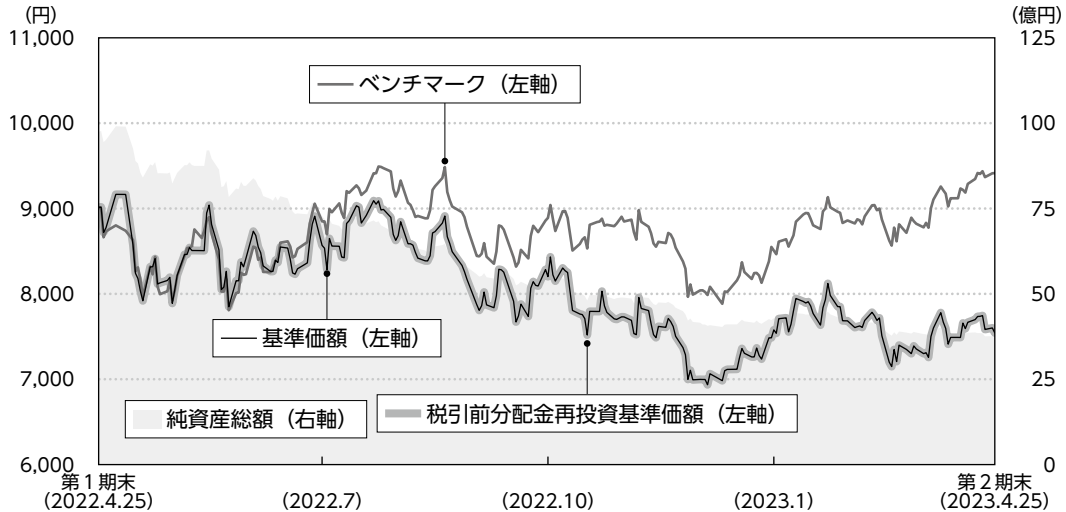
UD FONT

ユニバーサルデザイン（UD）の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

運用経過

2022年4月26日～2023年4月25日

基準価額等の推移



第2期首	9,014円	既払分配金	0円
第2期末	7,542円	騰落率 (分配金再投資ベース)	△16.3%

- (注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、前期末の基準価額にあわせて再指数化しています。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) ベンチマークはMSCIワールド・グロース・インデックス（配当込み、円ベース）で、前期末の基準価額にあわせて再指数化しています。なおベンチマークの詳細につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

基準価額の主な変動要因

<上昇要因>

- 2022年5月下旬から6月初旬にかけて、インフレ懸念の後退や米主要テクノロジー企業の堅調な業績、中国・上海のロックダウン（都市封鎖）解除の見通しが示されたことを受けて株価が上昇基調で推移したこと
- 2023年1月上旬から2月初旬にかけて、大型テクノロジー企業の業績を好感し、グロース（成長）株やテクノロジー株への物色などにより株価が上昇したことに加え、市場予想を上回る米雇用統計を受けて米連邦準備制度理事会（FRB）による積極的な利上げ観測が高まったことなどから、米ドルが対円で上昇したこと

<下落要因>

- 2022年5月初旬から中旬にかけて、FRBによる金融引き締めペースの加速が懸念され、株価が下落したこと
- 8月中旬から10月にかけて、欧米諸国における高インフレの持続や景気悪化懸念、イギリスの財政悪化懸念による金利の上昇などから投資家のリスク回避姿勢が強まり、株価が下落基調で推移したこと
- 2023年2月上旬から3月上旬にかけて、偵察気球をめぐる問題を引き金とした米中対立の再燃や米地銀の経営破綻に端を発した欧米金融機関への信用不安から株価が下落したこと

1万口当たりの費用明細

項目	第2期		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	95円	1.182%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は8,010円です。
（投信会社）	(31)	(0.385)	ファンドの運用、法定書類等の作成、基準価額の算出等の対価
（販売会社）	(62)	(0.770)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
（受託会社）	(2)	(0.027)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
その他費用	0	0.005	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0.005)	公募投資信託は、外部の監査法人等によるファンドの会計監査が義務付けられているため、当該監査にかかる監査法人等に支払う費用
（その他）	(0)	(0.000)	・信託事務の諸費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用 ・借入金の利息：受託会社等から一時的に資金を借り入れた場合（立替金も含む）に発生する利息
合計	95	1.187	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

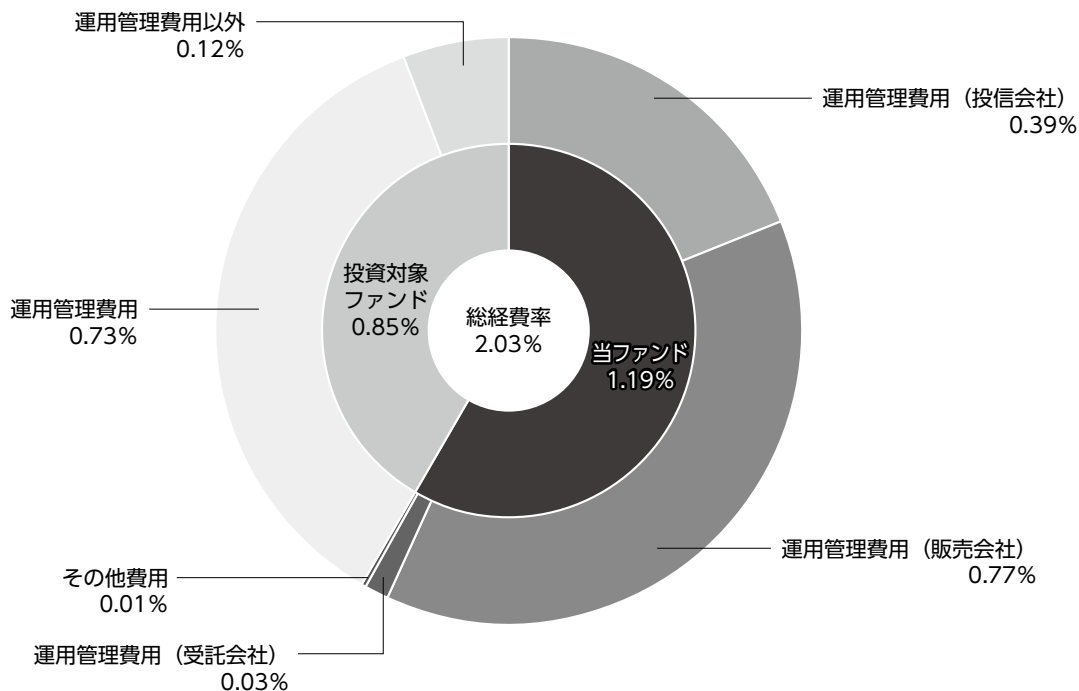
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(注4) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている外国投資信託証券が支払った費用を含みません（マザーファンドを除く）。

（参考情報）

■ 総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は2.03%**です。



総経費率 (①+②+③)	2.03%
①当ファンドの費用の比率	1.19%
②投資対象ファンドの運用管理費用の比率	0.73%
③投資対象ファンドの運用管理費用以外の比率	0.12%

(注1) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

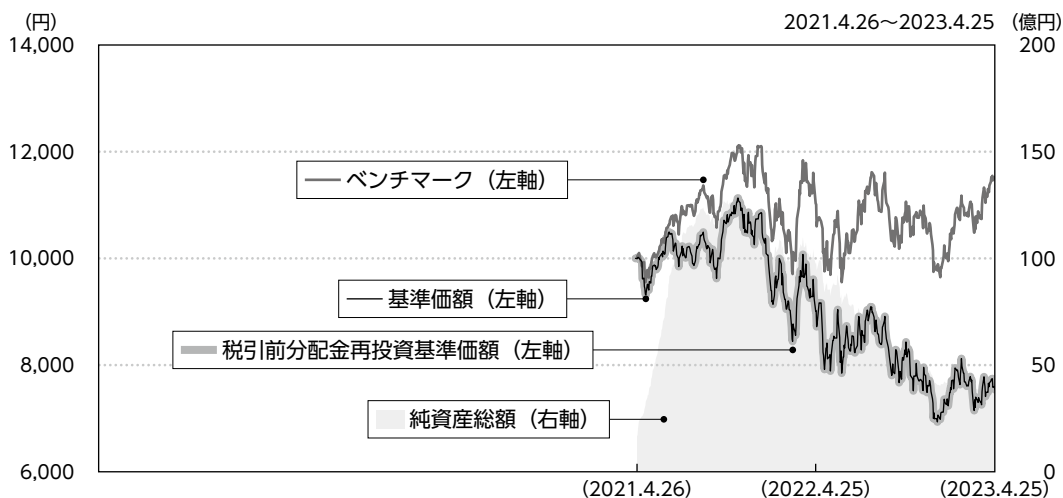
(注4) 投資対象ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資対象ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 当ファンドの設定日は2021年4月26日です。

(注2) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、設定時の基準価額にあわせて指数化しています。

(注3) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

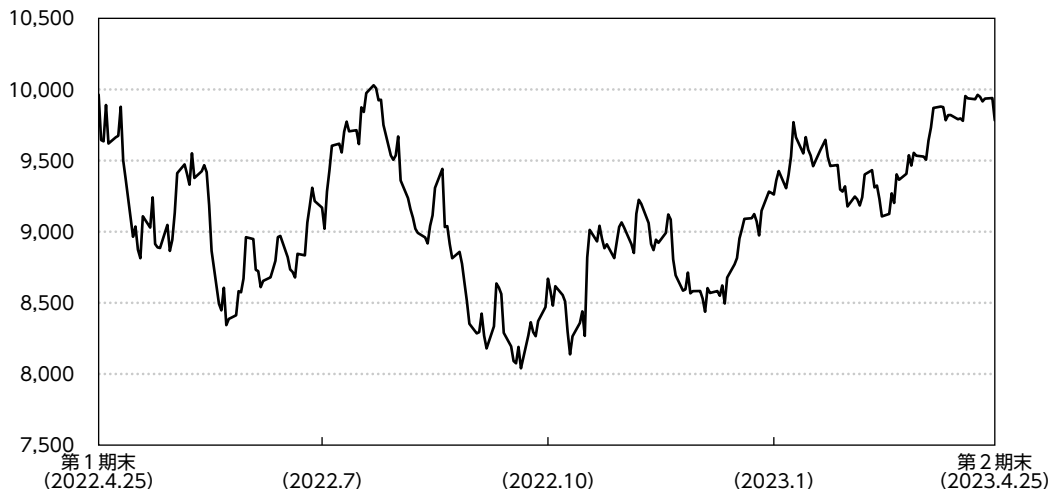
(注4) ベンチマークは設定時を10,000として指数化しています。

決算日		2021年4月26日	2022年4月25日	2023年4月25日
基準価額（分配前）	(円)	10,000	9,014	7,542
期間分配金合計（税引前）	(円)	—	0	0
税引前分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	△ 9.9	△16.3
ベンチマーク騰落率	(%)	—	10.3	4.5
純資産総額	(百万円)	1,694	9,746	3,699

(注) 設定日の基準価額は当初設定価額を、純資産総額は当初設定元本を記載しています。

世界株式市況

【MSCIワールド・グロース・インデックス（配当込み、米ドルベース）の推移】



(注) 指数はブルームバークのデータを使用しています。

当期の海外株式市場（MSCIワールド・グロース・インデックス（配当込み、米ドルベース））は期を通じて見ると横ばいとなりました。

期初はFRBによる金融引き締めペースの加速が懸念され下落する展開となりましたが、その後はインフレ懸念の後退や米主要テクノロジー企業の堅調な業績が示されたことなどを受けて上昇基調で推移しました。8月中旬から10月にかけては、欧米諸国における高インフレの持続や景気悪化懸念、イギリスの財政悪化懸念による金利上昇などから投資家のリスク回避姿勢が強まり、株価は下落基調で推移しました。その後はインフレのピークアウトが意識され、金融引き締めの長期化に対する警戒感がやわらいだことなどから上昇しましたが、12月中旬から下旬にかけてはグローバルでの金利上昇圧力を受けて株価は下落しました。1月以降は大型テクノロジー企業の業績を好感し、グロース株やテクノロジー株への物色などが上昇をけん引しました。2月上旬から3月上旬にかけては、偵察気球をめぐる問題を引き金とした米中対立の再燃や米地銀の経営破綻に端を発した欧米金融機関への信用不安から株価は下落したものの、当期末にかけては欧米金融当局の迅速な対応やFRBの将来的な利下げ期待などから、上昇基調で推移しました。

ポートフォリオ

■当ファンド

「GAMディスラプティブ・グロース・ケイマン・ファンド」への投資を通じて、日本を含む各国の株式のなかから、既存の市場を破壊しうる革新的な技術・ビジネスモデルを有し、株価上昇が期待できる成長企業の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行いました。

■GAMディスラプティブ・グロース・ケイマン・ファンド

*GAMインターナショナル・マネジメント・リミテッドの資料（現地における当期末の前営業日基準）に基づき、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

日本を含む世界の株式を投資対象とし、急速に変化するテクノロジーやビジネスの変化をとらえるために、トップダウンアプローチによりテクノロジーテーマのサイクルを見極め、個別銘柄の選定においては、ボトムアップアプローチによる企業のファンダメンタルズ分析とテクニカル分析の両面に焦点を当てて決定しました。

当期末時点における業種配分は、組入比率の高い順に情報技術（45.4%）、一般消費財・サービス（11.4%）、ヘルスケア（10.8%）としており、国・地域別配分は、組入比率の高い順にアメリカ（72.7%）、中国（5.6%）、ドイツ（4.7%）としています。

（注1）比率はすべて対組入株式等評価額比です。

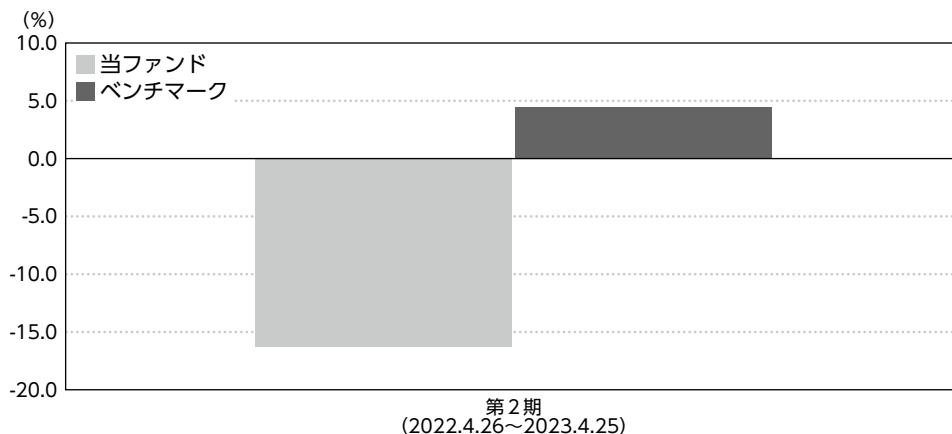
（注2）業種はGICS分類（セクター）によるものです。なお、GICSに関する知的財産所有権はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。以下同じです。

（注3）国・地域はGAMインターナショナル・マネジメント・リミテッドの分類によるものです。

■ニッセイマネーマーケットマザーファンド

円建ての短期公社債および短期金融商品に投資を行い、安定した収益と流動性の確保をめざしました。

ベンチマークとの差異



当期の税引前分配金再投資基準価額騰落率は-16.3%となり、ベンチマーク騰落率（+4.5%）を下回りました。

これは「GAMディスラプティブ・グロス・ケイマン・ファンド」の個別銘柄選択において、情報技術やヘルスケア、金融などの業種がマイナスに寄与したことなどによるものです。

(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

分配金

当期の分配金は、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案した結果、見送らせていただきました。なお、分配に充てずに信託財産に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

【分配原資の内訳（1万口当たり）】

項目	当期 2022年4月26日~2023年4月25日
当期分配金（税引前）	-
対基準価額比率	-
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	-

(注1) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切り捨てで算出しているため、合計が当期分配金と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

■当ファンド

「GAMディスラプティブ・グロース・ケイマン・ファンド」への投資を通じて、日本を含む各国の株式のなかから、既存の市場を破壊しうる革新的な技術・ビジネスモデルを有し、株価上昇が期待できる成長企業の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

■GAMディスラプティブ・グロース・ケイマン・ファンド

信用不安を受けた銀行の貸し出し態度の厳格化による景気への影響などが表面化するには、しばらく時間を要するとみられます。引き続き、金融市場の不安心理が拡大しやすいことや企業の経営活動が保守的になる可能性があることから、過度な楽観には注意が必要であると判断しています。信用不安が落ち着き、景気は減速しつつも良好な雇用環境が景気の下振れリスクを緩和し、金融引き締めが転換が図られることがベストシナリオではありますが、さまざまなリスクがくすぶっていることから、その要素を細かに注意深く見る局面が続いていると考えています。景気減速を背景とした企業業績見通しへの下方圧力は継続しており、金融引き締めが続く限り株式のバリュエーション（企業の利益・資産など、本来の企業価値と比較して、相対的な株価の割高・割安を判断する指標）は株価の押し上げ要因にはなりづらく、個々の企業業績を中心としたファンダメンタルズ（基礎的条件）に着目した物色やセクターローテーション（景気の局面ごとに有望な業種別銘柄群に投資対象を切り替えていく戦略）の激しい動きが続く可能性が想定されます。

当ファンドでは引き続き、既存の市場を破壊しうる革新的な技術・ビジネスモデルを有し、株価上昇が期待できる成長企業の株式に厳選して投資を行う方針です。

■ニッセイマネーマーケットマザーファンド

円建ての短期公社債および短期金融商品に投資を行い、安定した収益と流動性の確保をめざします。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

組入ファンド

	第2期末 2023年4月25日
GAMディスラプティブ・ グロース・ケイマン・ファンド	98.5%
ニッセイマネーマーケットマザーファンド	0.0

(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

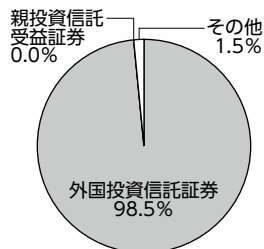
(注2) 組入全ファンドを記載しています。

純資産等

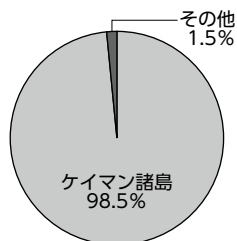
項目	第2期末 2023年4月25日
純資産総額	3,699,982,062円
受益権総口数	4,905,938,546口
1万口当たり基準価額	7,542円

(注) 当期間中における追加設定元本額は198,895,201円、同解約元本額は6,106,089,609円です。

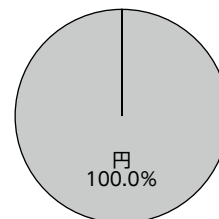
資産別配分



国別配分



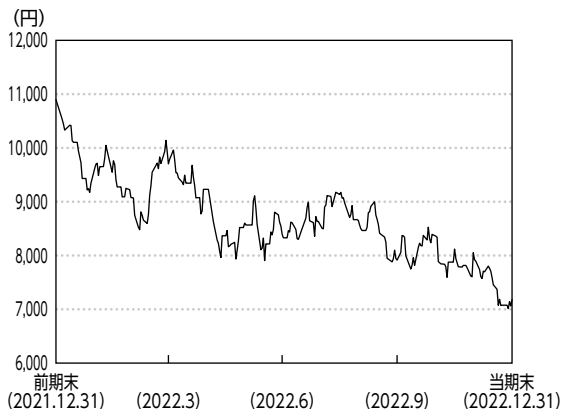
通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分は、2023年4月25日現在のものであり、比率は純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

GAMディスラプティブ・グロース・ケイマン・ファンドの概要

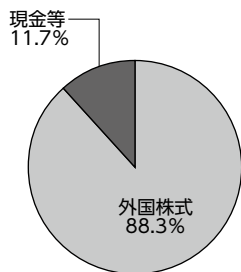
■ 税引前分配金再投資基準価額の推移



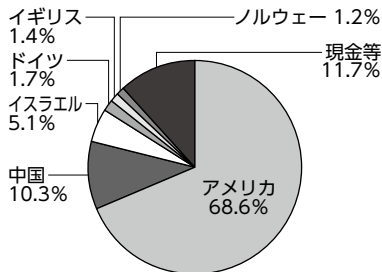
■ 上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
マイクロソフト	米ドル	10.0%
P T C	米ドル	6.4
インテューティブ・サージカル	米ドル	6.1
プラス500	イギリス・ポンド	5.1
エクスペディア・グループ	米ドル	4.4
ネットフリックス	米ドル	4.4
キーサイト・テクノロジー	米ドル	3.9
マーベル・テクノロジー	米ドル	3.1
シーゲイト・テクノロジー	米ドル	2.5
センサータ・テクノロジーズ・ホールディング	米ドル	2.4
組入銘柄数		40

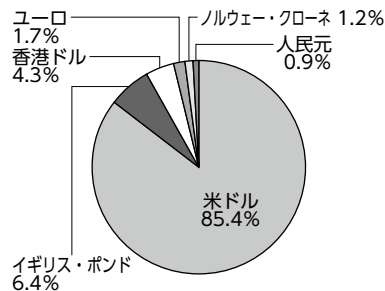
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



(注1) 税引前分配金再投資基準価額の推移は、外国投資信託証券の直近の決算期のものです。

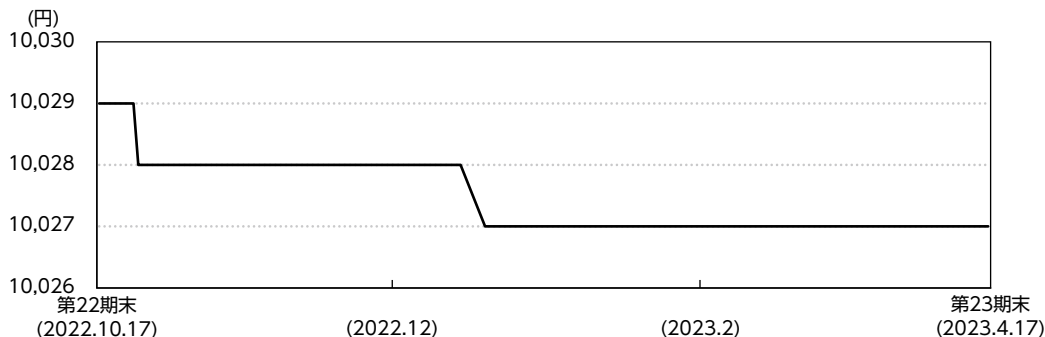
(注2) 上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分は、外国投資信託証券決算日（2022年12月31日現在）のものであり、比率は外国投資信託証券の純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はGAMインターナショナル・マネジメント・リミテッドの分類によるものです。

(注3) 1万口当たりの費用明細につきましては、入手が困難であるため記載していません。

(注4) 全銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）の投資有価証券明細表をご参照下さい。

ニッセイマネーマーケットマザーファンドの概要

■ 基準価額の推移



■ 上位銘柄

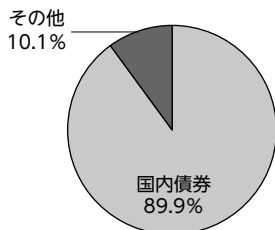
銘柄名	通貨	比率
第132回 共同発行市場公募地方債	円	22.1%
平成30年度第2回 北海道公募公債（5年）	円	21.9
第202回 政保日本高速道路保有・債務返済機構債券	円	14.2
第26回 政保日本政策金融公庫債券	円	14.2
第49回 政保地方公共団体金融機構債券	円	14.2
第1121回 国庫短期証券	円	2.0
第374回 大阪府公募公債	円	1.4
組入銘柄数		7

■ 1万口当たりの費用明細

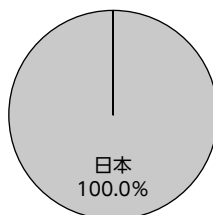
2022.10.18～2023.4.17

項目	金額
その他費用 (その他)	0円 (0)
合計	0

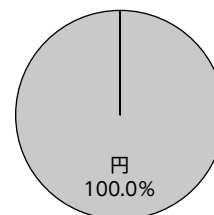
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



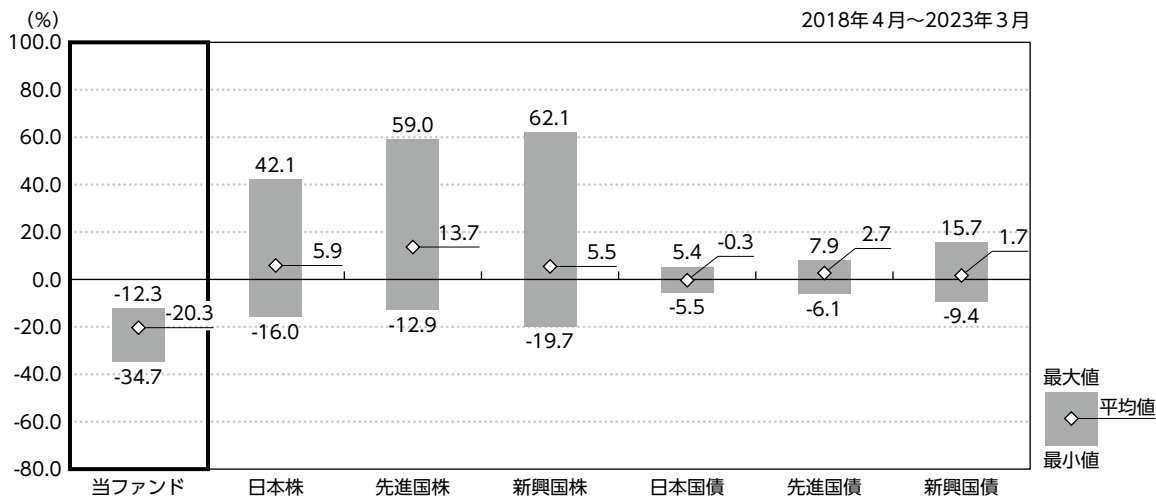
(注1) 基準価額の推移および1万口当たりの費用明細は、マザーファンドの直近の決算期のものであり、費用項目の金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。項目の詳細につきましては、前掲の費用項目の概要をご参照ください。

(注2) 上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分は、マザーファンド決算日（2023年4月17日現在）のものであり、比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

(注3) 全銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）の組入有価証券明細表をご参照ください。

参考情報

■ 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- (注1) 上記は、当ファンドの騰落率（税引前分配金再投資基準価額騰落率）と代表的な資産クラスの騰落率を比較したものであり、各資産クラスは当ファンドの投資対象を表しているものではありません。
- (注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものであり、決算日に対応した数値とは異なります。
- (注3) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年分に満たないため、実在するデータのみの記載となっています。したがって、代表的な資産クラスとの比較対象期間が異なります。

< 代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数 >

- 日本株・・・TOPIX（東証株価指数）（配当込み）
- 先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）
- 新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
- 日本国債・・・NOMURA-BPI 国債
- 先進国債・・・FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
- 新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ベース）

- ・すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- ・海外の指数は、「為替ヘッジなし（対円）」の指数を採用しています。

*各資産クラスの指数につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

指数に関して

■ファンドのベンチマーク等について

- ・MSCIワールド・グロース・インデックス（配当込み、円ベース）
MSCIワールド・グロース・インデックスは、MSCI Inc.が公表しているインデックスです。同インデックスに関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同インデックスの内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

■代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数について

- ・TOPIX（東証株価指数）の指数値および同指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。
- ・MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が公表している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・NOMURA-BPI 国債とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産は同社に帰属します。なお、同社は、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任を負いません。
- ・FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- ・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドは、JPモルガン社が算出する債券インデックスであり、その著作権および知的所有権は同社に帰属します。

お知らせ

■ 自社の実質保有比率

2023年3月末現在、当ファンドの主要投資対象であるニッセイマネーマーケットマザーファンドの信託財産において、当社は、当該マザーファンド受益証券を他のベビーファンドを通じて実質的に7.1%保有しています。当該実質保有分は、当社により他のベビーファンドを通じて解約されることがあります。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／株式	
信 託 期 間	2021年4月26日～2031年4月25日	
運 用 方 針	外国投資信託証券への投資を通じて、日本を含む各国の株式のなかから、既存の市場を破壊しうる革新的な技術・ビジネスモデルを有し、株価上昇が期待できる成長企業の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。	
主要運用対象	グ ロ ー バ ル ・ ディスラプター成長株ファンド (資 産 成 長 型)	「GAMディスラプティブ・グロース・ケイマン・ファンド」および 「ニッセイマネーマーケットマザーファンド」
	GAMディスラプティブ・ グロース・ケイマン・ファンド	日本を含む各国の株式
	ニッセイマネーマーケット マザーファンド	円建ての短期公社債および短期金融商品
運 用 方 法	以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ・外貨建資産への直接投資は行いません。 ・株式への直接投資は行いません。	
分 配 方 針	毎決算時に、原則として経費控除後の配当等収益および売買益等の全額を対象として、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して決定します。	